



高齢女性の化粧顔写真が観察者の心理・生理面に与える影響について

小森, 絵美

(Degree)

博士 (保健学)

(Date of Degree)

2011-03-25

(Date of Publication)

2011-09-08

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲5159

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1005159>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



氏 名	小森 絵美
博士の専攻分野の名称	博士（保健学）
学 位 記 番 号	博い第 5159 号
学位授与の 要 件	学位規則第 5 条第 1 項該当
学位授与の 日 付	平成 23 年 3 月 25 日

【 学位論文題目 】

高齢女性の化粧顔写真が観察者の心理・生理面に与える影響について

審 査 委 員

主 査	教 授	関 啓子
	教 授	宇佐美 眞

(別紙様式3)

論文内容の要旨

専攻領域 リハビリテーション科学

専攻分野 脳機能・精神障害学

氏 名 小森 絵美

論文題目 (外国語の場合は、その和訳を () を付して併記すること。)
“高齢女性の化粧顔写真が観察者の心理・生理面に与える影響について”

論文内容の要旨 (1,000字～2,000字でまとめること。)

近年、日本国内の老人保健施設などでは、様々な補完代替療法が行われている。補完代替療法 (Complementary and Alternative Medicine: 以下 CAM) とは、音楽療法やアロマセラピーなどに代表される、西洋医療に補足または代替の役割を果たすものである。このような CAM の一つとして化粧行為を用いた化粧療法 (Cosmetic Therapy, 以下 CT) が注目されている。これまでに CT を実践した結果、認知症患者において情動の活性化²⁰⁾などが報告されている。それにも関わらず、十分な普及をしていない。その理由として、CT の独自性が明らかにされていないこと、CT が与える影響を科学的に検討したものが少ないこと等が挙げられる。しかし、化粧は他者とのコミュニケーションツールである顔に施すという特徴から、化粧は観察者にまで様々な影響を及ぼす可能性を有する。これは、他の CAM では成立しない影響と推測される。そこで本研究は、化粧顔が観察者の心理・生理面に与える影響を明らかにすることを目的とした。現在多くの補完代替療法が行われている老人保健施設に CT を導入した際に化粧を施した人を見るという状況を想定し、高齢男

女を対象に、同年代女性の顔写真の観察課題を用いて多側面から測定を行った。高齢男女 27 名 (女性 16 名: 67.06 ± 3.76 歳、男性 11 名: 68.82 ± 3.57 歳) に同年代女性の素顔または化粧顔写真の観察を求めた。その際、得点の上昇により快の感情喚起を示す感情尺度である Self-Assessment Manikin (以下、SAM) 値の上昇により交感神経活動の賦活を示す唾液 α -amylase と心拍変動の Low Frequency (LF)/ High Frequency (HF)、心拍数、副交感神経活動の賦活を示す心拍変動の HF を指標として用いた。その結果、素顔写真観察時には、男女ともに心理・生理的指標のいずれにも有意な変化を認めなかった。しかし化粧顔写真観察時には、心理的には男女とも“快”の感情を有意に (男女とも、 $p < 0.01$) 示し、女性は唾液 α -amylase と LF/HF の有意な上昇を (共に $p < 0.05$) 認めた。一方、男性は生理指標に変化を認めなかった。これは化粧顔の観察が女性には交感神経活動の賦活と快さを、男性にも快さを与えることを示したものである。本研究により高齢者が集団生活を営む老人保健施設に化粧療法を導入した場合、化粧顔の観察者の心理・生理面にも影響し、その波及範囲が広い可能性が示唆された。また CT を導入した場合、交感神経を賦活させる可能性が示唆され、これは音楽療法等が副交感神経活動に影響を及ぼしリラクゼーションを導く⁴⁰⁾のに対し、化粧顔の観察がその反対の作用を有することを示した結果である。従って、CT は目的に応じて CAM を適用する際に新たな選択肢になりうると考えられる。

しかし、本研究では男性参加者が少ないこと、特に心臓自律神経活動指標では測定不能者が続出したことから、今後さらに男性対象者を増やし、化粧顔写真の観察による性差の有無を明確にする必要がある。さらに、女性対象者は程度の差はあるものの全員、日常的に化粧行為を行っており、今後は日常的に化粧行為を行っていない女性との比較も行い検討を行う必要がある。

参考文献

1. 住吉義光, 高嶋成光. がんの補完代替医療. 医療 62: 469-476, 2008.
2. 原千恵子. 痴呆性高齢者のための包括的心理療法. Journal of Japanese Clinical Psychology 22: 511-519, 2004.

3. 伊波和恵,浜治世. 老年期痴呆症者における情動活性化の試み-化粧を用いて. 健康心理学 6: 29-38, 1993.
4. Chang MY, Chen CH, Huang KF. Effects of music therapy on psychological health of women during pregnancy. Journal of Clinical Nursing 17: 2580-2587, 2008.
5. Cooke M, Holzhauser K, Jones M, et al. The effect of aromatherapy massage with music on the stress and anxiety levels of emergency nurses: comparison between summer and winter. Journal of Clinical Nursing 16: 1695-1703, 2007.

指導教員氏名： 関 啓子

(別紙1)

論文審査の結果の要旨

氏 名	小森 絵美		
論文 題 目	高齢女性の化粧顔写真が観察者の心理・生理面に与える影響について (外国語の場合は, その和訳を併記すること。)		
審 査 委 員	区 分	職 名	氏 名
	主 査	教授	関 啓子
	副 査	教授	宇佐美 眞
	副 査		印
	副 査		印
要 旨			
近年,国内の老人保健施設などでは様々な補完代替療法(CAM)が行われており,その一つとして化粧療法(Cosmetic Therapy, 以下 CT)が注目されている.しかし,CTの独自性が明らかにされていない,CTが与える影響を科学的に検討したものが少ない等の理由で,十分な普及をしていない.そこで本研究は,高齢男女27名(女性16名:67.0±3.7歳,男性11名:68.8±3.5歳)に同年代女性の素顔または化粧顔写真の観察を求め,化粧顔が観察者の心理・生理面に与える影響を明らかにすることを目的とした.その際,得点の上昇により快の感情喚起を示すSelf-Assessment Manikin,値の上昇により交感神経活動の賦活を示す唾液α-amylase,心拍変動のLow Frequency (LF)/ High Frequency(HF),心拍数と,副交感神経活動の賦活を示す心拍変動のHFを測定した.その結果,化粧顔写真観察時には,心理的には男女とも“快”の感情を有意に(男女とも, $p<0.01$)示し,女性は唾液α-amylaseとLF/HFの有意な上昇を(共に $p<0.05$)認めた.一方,男性は生理指標に変化を認めなかった.これは化粧顔の観察が女性には交感神経活動の賦活と快さを,男性にも快さを与えることを示したものである.本研究により高齢者が集団生活を営む老人保健施設にCTを導入した場合,化粧顔の観察者の心理・生理面にも影響し,その波及範囲が広い可能性が示唆された.また音楽療法等が副交感神経活動に影響を及ぼすのに対し,化粧顔の観察は反対の交感神経を賦活させる可能性が示唆され,CTは目的に応じてCAMを適用する際の新たな選択肢になりうると考えられる. しかし本研究では対象者,特に男性が少ないことから,今後さらに男性を中心に対象者を増やす必要がある.また,英語論文ではないため今後CTに関する英語論文を投稿する予定である.しかし,本研究は老人保健施設にCTを導入した際に化粧を施した人を見るという状況を想定したデザインを用いて,CTの独自性を明確にした価値ある研究である.よって,学位申請者の小森絵美は博士(保健学)の学位を得る資格があると認める.			
掲載論文名・著者名・掲載(予定)誌名・巻(号), 頁, 発行(予定)年を記入してください. 高齢女性の化粧顔写真が観察者の心理・生理面に与える影響について・小森 絵美, 三好 眞琴, 宇佐美 眞, 関 啓子・神戸大学大学院保健学研究科紀要第26巻・Bulletin of Health Sciences Kobe Volume26 (平成23年3月発刊・掲載予定)			